

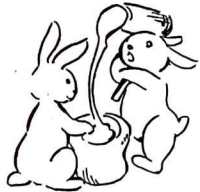
### ③ 高校生

#### 思わず涙

子どもの不登校からだいぶ時間がたつて、笑顔で話せると思っていたのですが、思わず涙ぐんでしまいました。それだけの思い出していたのと、改めて思いました。( . . )

#### 将来教員に

保護者の方々の思いや願いを聞くことができた貴重な時間となりました。お話を聞く中で、思わず自分まで涙が出た気持ちになりました。大学院の研究や学び、将来教員にたつたときに出会うであろう子どもたち、その保護者にどのような声かけや支援ができればかなど、考えたい良い学びになりました。(学生、京都)



### 子どものためには

今、現在(んとい)思っている親さんの話を聞いて、自分にもそんなことがあるなあと思っています。子どものためには何をする。どこまで行く」とおっしゃったお父さん、子どもに対する深い愛情を感じました。( . . )

#### 自分だけではないと

高校卒業、進学、休学、退学などいろいろな方の話を聞くことができて、皆んな悩んでいることがわかり、自分だけではないということ、そうだとおんなという共感ができて、この会に参加できてよかったと思います。(父母、京都)

#### 元気がいいと

その子その子が生き方を探している。その間、親が元気がいいと、いいと、いいと。子どもを信じて待つ姿勢。またまた自分自身カットウしています。(父母、京都)

### ④ 障害のある

#### うくに

話を聞いてもらって心がうくになりました。話しなごう少し、自分の気持ちと整理できました。やることばかりきてがんばれそうです。( . . 京都)

#### 思いさくみて

学校現場の厳(はと)と、子どもや保護者の生きづらさを共に感じたい全体会、分科会でした。分科会の参加者の思いさくみて、トステキな内容でした。( . . 京都)

### 危機感

障がいのあるお子さんに対して、教育現場の配慮は不十分だとつくづく思っています。特別支援学校(学級)の方向も、行動支援という形で強制的な指導が入ってきています。教員も一緒に支えていかなければ、支援教育も危機感を深めていると感じています。( . . 長野)

#### 見つめ直す

参加者それぞれ思いを聞かせて「真実、自分のこと、我が子のこと、生徒のことを見つめ直す貴重な時間となりました。(教職員、京都)

### 自由にコーナーは

コンベンションホール左手、ギャラリーの隣にあります。各地の全国連合員や関心のある団体の方の催し案内や情報冊子がたくさんあります。

ぜひ「自由に」お持ち帰り下さい

記事訂正 おおびに訂正します。お詫言います。第2号の裏面のみ

\* 東山区「不登校のこころを考ふる委員会」シオンの家 月2回親のあつまる会を開いています。親の会は親の居場所

聞いてほしいとあります。心にくらぶしつづけていきたいと思います。が、振付けはあつた。

### 出品者の方へ

3:30 締め切りです。またお引き取り下さい。



2023.  
第2号全国のどいん京都  
速報  
希望あつて8号

# ⑤ 学校とのかかわり

もっともっと聞きたい

話し出したら止まらなくなって、もともと話したい!となりました。和歌山の話、愛知の話、京都の話、大分の話、全教、NPO長崎の話、つげの高校さんとりくみ、亀岡の話、もっともっと聞きたいと思いました。ここ4~5年、私はなんと孤独な中でやってきたんだらう。ここに来ればこんなに沢山の当事者がいるがいたんだと感動しました。ここに来れたこと、ここに来れるまでに私が元気をとり戻せたことを実感しました。

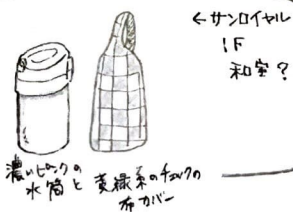
(父母・和歌山)

## 保健室の先生を

初めての参加でとても緊張していましたが、参加者の方があたたかく意見を聞いてくださって、参加しよかったです。これから保健室の先生を目指す身として、子どもとどうかかわろうかよく考えていきたいです。

(学生)

おすそわかれ物



# 分科会 感想

## 難しいですが系口を

初めての参加でした。「生々しい」お話をうかがうことができました。「学校とのかかわり」なかなか難しいですが、その系口を探したいと思っています。とても参考になりました。(宮城)

## 心のためにんだ思いを語り尽くす時間に

学校とのかかわりという分科会でいろんな「学校」関係者の方々がお集まりですが、ここでは誰もが親の目線に立って語り合うという貴重な場になっているなあと感じます。明日の続きは、梓をはじめ、心のためにんだ思いを語り尽くす時間になればと思います。

(東京・埼玉)



# 不登校 自己肯定感が大切



亀岡で全国のつどい

全国のつどい in 京都

新刊 2023.10.8 1000円

## 高垣・立命大名誉教授が講演 保護者や教師ら交流

保護者の親や教師ら「不登校問題」について学び合う「亀岡市余部町・不登校問題全国つどい」が、8日、亀岡市余部町のガレリアかめおかで始まりました。全国から集まった保護者や教師らが自己肯定感をテーマにした講演を聴いたり、分科会を体験したりして交流を深めました。

高垣名誉教授は講演で「不登校は、子どもが自分のペースで成長するまで待つことが大切です。保護者や教師は、子どもを押しつけないで、子どもが自分で決めるまで待つことが大切です。また、子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。」



# 寄り添い、支える



「寄り添い、支える」がテーマの講演会が、8日、京都府立総合支援学校で始まりました。全国から集まった保護者や教師らが、子どもとのかかわりについて語り合いました。高垣名誉教授は講演で「不登校は、子どもが自分のペースで成長するまで待つことが大切です。保護者や教師は、子どもを押しつけないで、子どもが自分で決めるまで待つことが大切です。また、子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。」



不登校問題全国つどいの様子(左から、高垣名誉教授、立命大 神宮)

高垣名誉教授は講演で「不登校は、子どもが自分のペースで成長するまで待つことが大切です。保護者や教師は、子どもを押しつけないで、子どもが自分で決めるまで待つことが大切です。また、子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。子どもが自分で決めたことを尊重することが大切です。」